

研 究 所 紹 介

三井東圧化学(株)総合研究所

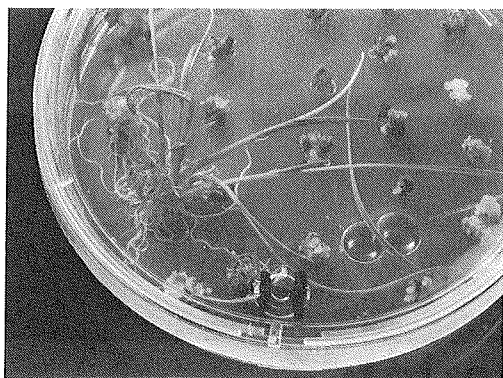
三井東圧化学は、総合化学会社の一つとして、広汎な研究開発活動を展開、時代に適応しつつ製品構成の変革を図っているが、現在次のような分野に注力している。

- 1) 既存主要製品の強化（化学品・汎用樹脂の触媒開発および誘導品開発）。
- 2) 既存事業の拡充（医薬、農薬、有機化合物、接着剤、特殊樹脂）。
- 3) 成長分野への展開（高機能樹脂、電子材料など）。
- 4) 先端技術、新素材の開発（生物工学、C₁化学、太陽電池など）

当社研究所の起源は、古く三井鉱山が本店分析室を東京に設置した明治25年に遡る。その後、3/4世紀を経、目黒、大船、茅ヶ崎に分散した研究所を昭和47年に統合し、現在の総合研究所（組織図参照）が編成された。

植物保護や植物育種等に関連する研究は、総合研ライフサイエンス研究所の傘下で行なわれている。

農薬研究部では、農作業の省力化を主目標に

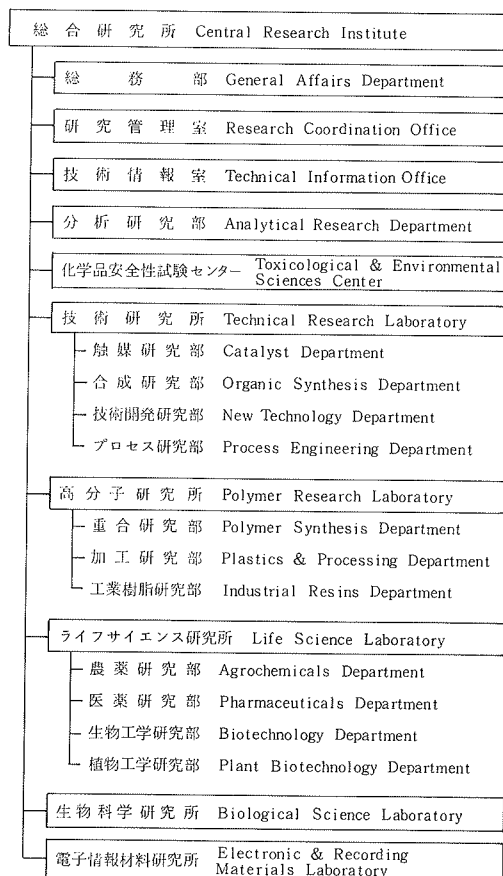


プロトプラストから再生した稲（植物工学研究部）
Generating rice plants from thier protoplasts

新規な有機化合物のデザイン、合成、生物試験などの探索段階に始まり、製剤化実用化試験、環境での安全性など広範で長期にわたる努力を続けている。これまでにMO、ウリベストおよ



総合研究所，研究本館（鎌倉市，大船）



組 織 図

びこれらを主剤とする複合剤の開発に成功した。

植物工学研究部では、21世紀の食糧危機に対応すべく、薬培養を利用した半数体育種、培養中の突然変異の利用、プロトプラストの培養を

基礎とする細胞融合、組換えDNAによる新しい形質の導入等バイオテクノロジーによる水稻、野菜の品種改良に取り組んでいる。この他にも、植物の培養細胞による物質生産を手がけており将来への夢を育んでいる。

農薬は正しく使いましょう。

一発いちはん！

ヨートル普及会



●水田除草剤

ヨートル® 粒剤

◆一発処理でも高い防除効果を示す水田初期除草剤

- 広範囲の雑草に効果があります。
- 処理適期幅が広く、使いやすい除草剤です。
- 雑草がダラダラ発生する場合でも安定した効果があります。

人 事 往 来

農薬工業会では、5月26日開催の第56回通常総会において理事が改選され、続いて開催された臨時理事会において次記の役員が選出された。

会 長 小平 祐（日本農薬株式会社）

代表取締役社長）

副会長 望月信彦（クミアイ化学工業株式会社）

代表取締役社長）

副会長 彌永一進（日本曹達株式会社）

常務取締役農医薬本部長）

専務理事 佐々木亨（再任・常務理事）

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京（03）832-4188（代）

昭和62年7月発行

植調第21巻第4号

定価400円（送料170円）

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京（03）833-1821番（代）